

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
(以下「ディズニー」という)
第八回ディズニー・チャンネル放送番組審議会
議事録

開催日時 : 2007年4月13日(金) 17:30~19:00
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ
ショナル ジャパン
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7
出席審議委員数 : 5
出席審議委員氏名 : 木下 美子
中川 眞也
前田 耕作
柳生 純麿
湯川 れい子

その他、ディズニ : エディー・カックス
ーからの出席者 (バイス・プレジデント/編成部)
新井 康子
(スケジューリング・マネージャー/編成部)
待鳥 雅之
(コンプライアンス・スーパーバイザー/編成部)

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニーの番組編成・改編について
 - 2) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー放送番組について
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にVHSテープを送付した。)
「プーさんといっしょ」
「ザ・リプレイス 大人とりかえ作戦」
「コーリー ホワイトハウスでチョー大変！」
「シャーマンキング」

審議の概要

- 1) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー番組編成について
ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニーの番組編成・改編について

説明がされ、下記のとおり意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

- 今回の番組編成の改編では、JETIX の番組が大幅に変更された。
4月から新たに、日本のアニメーション4作品が放送開始した。
- 現在のところ、放送については視聴者の反応は賛否両論といったところ。
- 3月からは、トゥーン・ディズニーで新たに映画枠「Big Movie Show」も始まった。
- ローカライズしようとしているのか？
- トゥーン・ディズニー/JETIX ではオリジナル番組は作らないのか？
- オリジナル番組については、現在制作を始めているところ。
- 「日本のアニメーションをディズニーでやるのか？」という意見が出てくるのでは？…
- トゥーン・ディズニーの認知度を上げるために新たな試みとして、これらの日本の作品を導入してみた。

- 昔からディズニー作品を見ている視聴者にとっては、最近のアニメーションの主人公たちはあまり可愛くない。 現在の子供たちは、それでも彼らに親しみを持つのであろうか？
- 最近の可愛いキャラの例としては、スティッチがいる。
認知度・人気もある。
- 『キム・ポッシブル』などもあるが？
- あの絵も「可愛い」とするか、「可愛くない」ものと見るのか評価が分かれるところだが。
- 最近は、実写ドラマ系でも視聴率が良く取れるようになり、ディズニー・チャンネル・スターたちの認知度も上がってきている。
- 実写ドラマの場合、背景や登場人物が自分の延長線であるという見方をするのだろうか。
- 憧れもあると思う。

2) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー放送番組について

ディズニー・チャンネル放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

『プーさんといっしょ』について：

- 昨年の「ミッキーマウス・クラブハウス」に引き続き、3DCGの教育的エンターテインメント作品。ストーリーを通して、子供たちが登場キャラクターといっしょに協力して発見する・観察する・調べる・学ぶといったアクションに導く。
- 今回、主人公のダービーという女の子は特に何の前触れもなく現れたが？
- 本作品では、クリストファー・ロビンに代わり、彼女がプーさんたちと視聴者の橋渡しをする。
- プーさんという安定したブランドから出てきたキャラクターなので、前歴がなくとも安心して受け入れることは出来る。
- プーさんがゆっくりしたキャラクターということで、ストーリー展開も多少ゆっくり目のようだが、最近の傾向と比較すると、多少遅いか？
- 本来子供たちに合うスピードとして、ちょうど良いのでは？

『ザ・リプレイス 大人とりかえ作戦』について：

- 孤児の姉弟・スタントマンの父親・スパイの母親というユニークなファミリーが登場。主人公（弟）のトッドは、気に入らない大人をフリームコ社から派遣される人物と入れ替えて上手く乗り切ろうとする。が、結局は人間を入れ替えるだけでは上手くいかずに、楽は出来ない、今あるもので工夫・努力してやり遂げよう、というのがコンセプト。
- 展開、そして人物を入れ替えるという発想は面白い。
- 絵のスタイルが多少、ディズニーの伝統的なタッチらしくない。
- 一筆書き（描き）調のところ、まだ慣れない。作品については、「いけない」くらいの新しさを感じる。設定世界の雰囲気古く作られている。
- ストーリーの面白さと絵のギャップが良い。

『コーリー ホワイトハウスでチョー大変！』について：

- レイブンの父親ビクターがホワイトハウス専属のシェフになり、コーリーもあわせて移り住む。彼が持ち前の狡さを使って色々仕出かすというコメディ作品。
- シチュエーションの面白さで魅せてくれる作品。
- 大人が見ても面白いと感じたが、日本市場ではどの年齢層がターゲットなのだろうか？
- 「大統領」という単語は子供にとって現実感のない言葉である。日本には社会内での階層というものが、まだあまりない社会なので、普通

の子供たちがどのような目で見るとは興味がある部分でもある。

『シャーマンキング』について：

- 少年ジャンプ掲載の漫画が原作。地上波でも放送された経緯あり。脅威の人気を誇った。
- 暴力的な部分、言葉遣いが多少気になる。JETIX 枠での放送作品であり、作品世界・キャラクターの特性を見せるためにある程度必要な要素とも見れるが…
- 日本の場合、中学生でも半数以上は、人間は生まれ変わると信じているとのデータもある。自殺なども社会問題として大きく捉えられている中で、ディズニーがこのような番組をあえて放送するというのはネガティブに見える。おどろおどろしさ（霊など）というのは発想として乏しい気がする。
- こういったものが最近、地上波でよく放送されている「死後の世界」モノに通じる部分もあるし、実際はこのようなアニメーションが要因であるということも十分に考えられるのでは？

・その他の作品等について：

- 今年のプラチナ・ウィークのラインナップや『ジャンプ・イン！』には興味あり。
- 『ハイスクール・ミュージカル』にも出演したコービン・ブルーは、アメリカで大変人気がある。彼主演の映画『ジャンプ・イン！』では、本当の父子で共演している。
- 『ハイスクール・ミュージカル』のミュージカルの制作が発表された。東京では6月12日から、大阪では7月に、公演がはじまる。
- 『シークレットアイドル ハンナ・モンタナ』は実写ドラマの中でも特に人気がある。
「一番好きな番組」「もっと情報を」「番組専用サイトがほしい（現在はあある）」など、作品の人気を裏付けるコメントを多く頂いている。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので 19:00 に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。